

# 玩具手技

「はぶらんこ」

東京女高師  
附屬幼稚園

及川 ふみ

なくてはなるまい。なにも、始終にこゝ顔をつくつてゐるといふのではなくとも、物の見方、物の感じ方、殊に子ども達の生活のさばき方に、明るさを失つてはならない。しかもこの性格については、子どもよりわれゝの方が、不明朗になり易い複雑性をもつもので、といつて、子どもの通りではゐられない譯だし、そこに、眞の性格としての、重要な注意

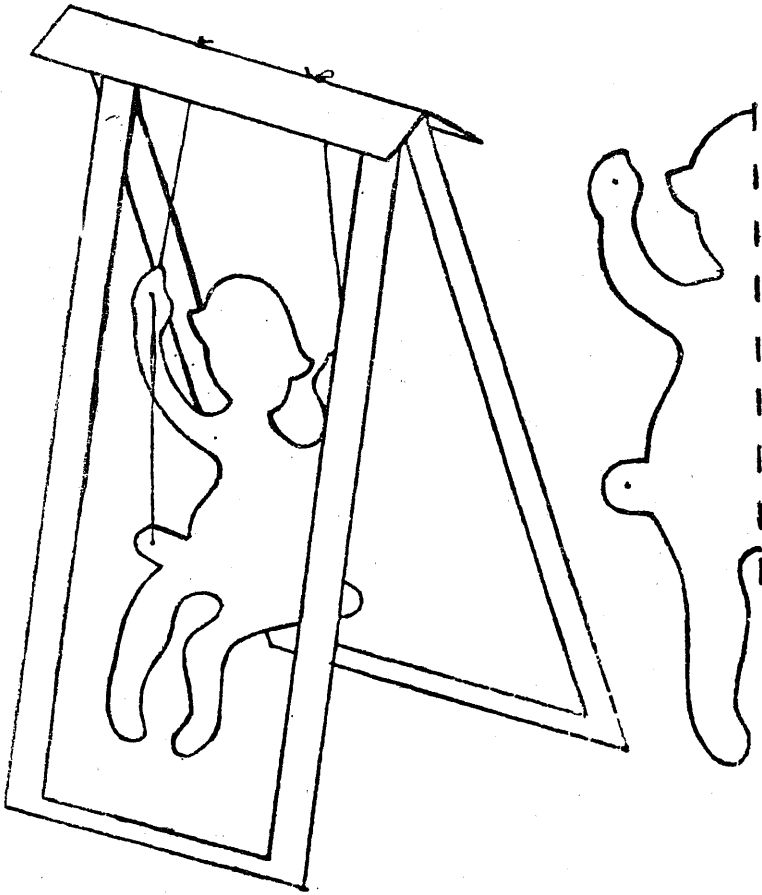
が必要になる。そのために、日頃の高い教養が大切だが、實際として、子どもといつしよに、我れを忘れて遊びもし、仕事もし、その集注の無我によつて單純化した心に、つまらぬ複雑性のまぢらぬやうにすることだ。暗さはつきり心の隙間にかげらう陰影だから、そのすきまを無くすれば、陰性の餘地もなくなるのである。

材料 古はがき 二枚

古糸 二〇センチ

挿圖1 の如く葉書を、幅四センチ半に二つ折りにして寸法通り線を引き、鈿を入れます。柱を茶色にぬると奇麗になります。塗る時は裏表ともに塗ります。外の枠と内の枠は下で七センチの間隔を置いて前後に開きます。

挿圖2 はぶらんこに乗る子供で大體の大きさを示したものです。形は幼児たちが葉書を二つ折にして左右のバランスがとれる様に切り抜きませう。はぶらんこに乗つてゐる子供の



顔や、お洋服は幼児たちが銘々す  
きなやうにかいたり、模様をつけ  
たりしませう。

第一圖の屋根の部分の中央に三  
センチの間隔を置いて、第三圖出  
來上の圖にある様に腰掛、手、屋  
根、と糸を通します。

子供の腰は、腰を掛けてゐる様  
に丸みをつけて折り、足は下へさ  
けてゐる様に、膝の部分より丸み  
をつけております。



圖 丁

ぶらんこをとりあふ子らや  
天高し

ぶらんこやかきの實あかき  
保育園

ぶらんこにからきめまひや  
秋日和